

令和2年3月12日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

どちらかというと思わない 0% 思わない 0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う 77.8% どちらかというと思う 22.2%

どちらかというと思わない 0% 思わない 0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う 66.7% どちらかというと思う 33.3%

どちらかというと思わない 0% 思わない 0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）

・1年間の見通しがあると嬉しい。3年生にどうつながっていくのか知りたい。

・外国語を苦手だと思わず、楽しく学び、日常でも興味がわき、慣れ親しめるようになればよいと思います。

(6) 保護者及び学校関係者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う 31.3% どちらかというと思う 56.3%

どちらかというと思わない 12.4% 思わない 0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う 56.3% どちらかというと思う 37.5%

どちらかというと思わない 6.2% 思わない 0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う 31.3% どちらかというと思う 50.0%

どちらかというと思わない 18.7% 思わない 0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）

・外国語に対しての抵抗感がなくなり、コミュニケーションを積極的に図ることがで

きる。外国語以外でも、学校行事や地域の行事に積極的に参加する意欲を育てることができる。

- ・児童が楽しくやってみたいと思える活動になるようにしたい。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては学校教育目標「夢と豊かな心を育み、たくましく生きる力をもった児童の育成」のねらいに基づき、外国語活動及び外国語科の指導を実施している。その結果、スモールトークやクラスルーム・イングリッシュ等の英語力の向上を図ることができている。一方で、外国語の学習を苦手と感じる児童も少数見られる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校においては、第1学年から外国語活動を実施してきた結果、第6学年対象の外部調査「小学校英語トライアル」において、「よくできました」という評価を得られた。このように、第1学年から外国語活動を実施することで、本校児童はリスニングとリーディングで優れた英語力を身に付けることができている。

新学習指導要領における外国語活動及び外国語科の目標の中心はコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成である。小学校英語トライアルのレベル別人数分布のグラフでは「もう少し」のゾーンに35%の児童が留まった。外国語活動及び外国語科の授業の中でコミュニケーションを図る素地であるリスニングとリーディングの指導をさらに充実することで改善を図りたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

小学校英語トライアルのレベル別人数分布のグラフでは「もう少し」のゾーンに35%の児童が留まっている課題を踏まえ、外国語活動及び外国語科の授業の中で適切な言語活動と単元構想に基づいた授業を実施し、本特例の改善を図ることが必要と考えられる。そのため、言語活動の必然性や児童の実態を踏まえた単元構想に基づく授業改善を実施することで、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を図りたい。